

平成 27 年度

「運営に関する計画」
最終評価

平成 28 年 2 月 24 日 (水)

大阪市立豊新小学校

大阪市立豊新小学校 平成 27 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校教育目標

◇豊かな心をもち、めあてをもって、意欲的に学ぶ子どもを育てる

- ・たくましい身体になる子ども
- ・ゆたかな心をもつ子ども
- ・よく考える子ども

1 学校運営の中期目標（平成 25 年度から平成 27 年度の 3 ヶ年）

現状と課題

児童は全般的に素直で明るく、元気よくあいさつができている。また、学習にもまじめに取り組んでおり、特に体験的な学習を好んでいる。また、学校行事、委員会活動やクラブ活動にも積極的に取り組めている。しかしながら、全国学力学習状況調査の結果では、国語 A・B、算数 A・B 全てにおいて全国平均正答率を下回っており、また、一部児童に学習規律をきちんと守れないなど、問題行動も見られる。地域・保護者は学校の教育活動に好意的で、多大なる支援・協力を得ることができる。

そこで、基礎・基本的な知識や技能の確実な定着を目指し、反復学習や体験的な学習、協働的な学習を多く取り入れるなど、教科指導法の工夫が必要である。さらに、学校図書館や地域ボランティアを効果的に活用した読書活動の推進、国語科を中心とした全ての教科において言語活動を多く取り入れた授業の展開、児童が自己肯定感や自尊感情が高められるような取組の充実が課題と考える。

中期目標

【視点 学力の向上】

- 学習理解度到達診断「しんだん」における正答率 6 割以上の児童の割合を、全学年で前年度割合より増加させる。 (カリキュラム改革関連)
- 言語力や論理的思考能力の育成のため、重点教科で 6 年間を見通した言語活動の充実を図る実践的な指導計画を作成する。 (カリキュラム改革関連)
- 英語教育の強化を図るため、年度ごとに順次指導学年を拡大する。 (グローバル化改革関連)
- I C T を効果的に活用した授業の充実を図る。 (グローバル化改革関連)
- 授業研究を伴う校内研修の充実を図る。 (マネジメント改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- 学校アンケートにおける「命や人権の尊さについて考えたことがある」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を 90% 以上にする。 (カリキュラム改革関連)
- 学校アンケートにおける「学校のきまりを守って学校生活を送っていますか」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を 80% 以上にする。 (カリキュラム改革関連)

○自他ともに認めあい、思いやりのある児童を育成するとともに、心豊かな子どもの育成のため、芸術鑑賞行事（演劇・音楽鑑賞・古典伝統芸能）を実施する。
(カリキュラム改革関連)

○避難訓練（防災教育）を毎学期に実施し、また高学年においては安全（防犯）教育も実施する。
(グローバル化改革関連)

○教師力の向上に向けた研修ならびに研究の推進をする。
(マネジメント改革関連)

○産業界との連携と学習資源の有効活用をする。
(学校サポート改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について、毎年、前年度と比べて3種目以上上回る。
(カリキュラム改革関連)

○学校アンケートにおける「運動することが好き」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を70%以上にする。
(カリキュラム改革関連)

○学校アンケートによる「手洗い・うがいをしっかりとし、健康に気をつけている」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。
(カリキュラム改革関連)

○学校アンケートによる「給食を残さず食べている」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。
(カリキュラム改革関連)

○安全、安心、良好な教育環境の確保を図る。
(マネジメント改革関連)

【視点 特別支援教育の充実】

○障がいのある全ての子どもに対して「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」を作成し、個別の指導計画に基づき指導します。
(カリキュラム改革関連)

○障がいのある子と通常学級の子どもの協働に成長する教育を推進する。
(カリキュラム改革関連)

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点 学力の向上】

- 学習理解度到達診断「しんだん」における国語と算数の正答率6割以上の児童の割合を、全学年で前年度割合より増加させる。 (カリキュラム改革関連)
- 言語活動の充実を図る授業づくりに向けた2年間の研究のまとめを行う。 (カリキュラム改革関連)
- 英語教育の強化を図るため、3年生からの指導を実施する。 (グローバル化改革関連)
- ICTを効果的に活用した指導法の研究を行い、実践事例を蓄積する。 (グローバル化改革関連)
- 文部科学省の委託事業「平成27年度自律的・組織的な学校運営体制の構築に向けた調査研究事業」の研究指定を受け、校務支援システムを活用して事務作業の効率化を図り、児童に関わる時間を増やす。 (マネジメント改革関連)
- 全教員が一人1回以上の授業研究を行い、内、3回は全体研修会を実施する。 (マネジメント改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- 学校アンケートにおける「命や人権の尊さについて考えたことがある」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。 (カリキュラム改革関連)
- 学校アンケートにおける「学校のきまりを守って学校生活を送っていますか」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。 (カリキュラム改革関連)
- 自他ともに認めあい、思いやりのある児童を育成するために、ゲストティーチャー派遣事業により、「いのちと性」の教育事業、子どものストレスマネジメント教育事業、子どもの情報教育事業を実施する。 (カリキュラム改革関連)
- 心豊かな子どもの育成のため、芸術鑑賞行事を実施する。 (カリキュラム改革関連)
- 避難訓練（防災教育）を毎学期に実施し、また高学年においては安全（防犯）教育も実施する。 (グローバル化改革関連)
- 問題行動（生活指導）対応、いじめに関する研修を実施する。 (マネジメント改革関連)
- 産業界等と連携し、ゲストティーチャーを招いての職業講話を高学年に実施する。 (学校サポート改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

- 昨年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の全国平均を下回っている「20mシャトルラン」、「立ち幅跳び」及び「反復横跳び」の結果をふまえ、体力増進を図る。秋の調査結果が春の調査結果より上回る。 (カリキュラム改革関連)
- 学校アンケートにおける「運動することが好き」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を70%以上にする。 (カリキュラム改革関連)
- 学校アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりとし、健康に気をつけている」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。 (カリキュラム改革関連)

○学校アンケートによる「給食を残さず食べている」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。

(カリキュラム改革関連)

○毎月1回安全点検日を設け、修理・補修の必要な個所の実態を把握し、早期に改善を行う。

(マネジメント改革関連)

【視点 特別支援教育の充実】

○障がいのある全ての子どもの「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」を作成し、個別の指導計画に基づき指導する。

(カリキュラム改革関連)

○障がいのある子と通常学級の子どもの交流および共同学習を推進する。

(カリキュラム改革関連)

3 本年度の自己評価結果の総括

【視点 学力の向上】

○学習理解度到達診断「しんだん」の算数は、正答率6割以上の児童の割合を全学年で前年度割合より増加させることができたが、国語はわずかではあるが増加させることができなかつた。基礎的・基本的な内容を確実に定着を目指し、個に応じた指導をさらに充実させていく。

○言語活動の充実を目的に、授業研究、研修会、教材開発などを行い、紀要にまとめるなど、充実した研究活動ができた。

○3～6年生において、計画通り外国語活動の授業を展開することができた。低学年への導入も検討していかなければならない。

○実技研修会やモデル校の公開授業に参加したり、校内における実践を増やしたりして、ICTの効果的な活用方法について指導方法の研究を行ってきた。授業実践に向かって本格的に準備を進めていかなければならない。

○訪問研修会ならびにお互いに操作を教え合いによって、活用の仕方はある程度理解できたが、引き続き校務支援システムの活用方法の理解に努めなければならない。

○全教員が計画通りに研究授業を行い、校内研修の充実を図ることができた

【視点 道徳心・社会性の育成】

○さまざまな資料を活用し、道徳の授業を展開していくことができた。今後も、年間標準授業時間を確保するとともに、人権に関する指導を進める。

○社会や集団生活でのルールを守ることを繰り返し指導し、意識は高まってきた。学校アンケートにおける「学校のきまりを守って学校生活を送っている」の項目において、目標を大きく上回った。

○東淀川区が推進している「小中学校ゲストティーチャー派遣事業」を計画的に実施することができた。

○芸術鑑賞行事もローテーションに従い、古典芸能：落語を実施することができた。

○災害についての正しい知識と的確な判断力を身につけ、正しい判断力を持って適切に行動できるように避難訓練を学期毎に実施することができた。

○地域の方や保護者とともに「防犯教室」を全学年で「非行防止教室」を5年生で実施す

ることができた。

- 問題行動及びいじめを許さない集団の育成に取り組むとともに、早期解決に努め、教職員で共通理解を図ることができた。
- キャリア教育を大阪青年会議所の協力で外部講師を招いて6年生で実施することができた。

【視点 健康・体力の保持増進】

- 豊富な運動量を確保した授業を目標に進めて、秋に実施した運動能力の結果は全体的に体力増進を図ることができた。
- 体育の授業作りが工夫されており、学校アンケートにおける「運動することが好き」の項目において目標を大きく上回った。
- 手洗い・うがいのアンケート結果では、「手洗い・うがいをしっかりとし、健康に気をつけている」の項目において、目標の90%にわずかに届かなかったが、寒い中でも積極的に取り組めていた。
- 学校アンケートにおける「給食を残さずに食べている」の項目において、目標を大きく上回ることができた。食への関心も高まり、残さず食べようとする意識が高まっているためだと考えられる。
- 毎月一回の安全点検を行い、修理・補修の必要な個所の実態を把握し、早期改善に努めた。安全点検では、項目または、具体的な文面を加えていく方向で検討する。

【視点 特別支援教育の充実】

- 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」に基づき、見直しを行いながら、支援の方法を工夫して指導を行うことができた。
- 特別支援教育に関する研修会を学期に1回実施し、支援を必要とする児童の実態やニーズについて共通理解を図った。
- 教育活動全体を通じ、みんなのよさに気づく活動や実践が工夫され、自然に互いの違いを理解し、手助けができ、尊重し合う姿も見られる。

大阪市立豊新小学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなか

年度目標	達成状況
<p>【視点 学力の向上】</p> <p>○学習理解度到達診断「しんだん」における国語と算数の正答率6割以上の児童の割合を、全学年で前年度割合より増加させる。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>○言語活動の充実を図る授業づくりに向けた2年間の研究のまとめを行う。(カリキュラム改革関連)</p> <p>○英語教育の強化を図るため、3年での指導を実施する。 (グローバル化改革関連)</p> <p>○ICTを効果的に活用した指導法の研究を行い、実践事例を蓄積する。 (グローバル化改革関連)</p> <p>○文部科学省の委託事業「平成27年度自律的・組織的な学校運営体制の構築に向けた調査研究事業」の研究指定を受け、校務支援システムを活用して事務作業の効率化を図り、児童に関わる時間を増やす。 (マネジメント改革関連)</p> <p>○全教員が一人1回以上の授業研究を行い、内、3回は全体研修会を実施する。 (マネジメント改革関連)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【区分 個に応じた学習指導】</p> <p>個別指導やグループ指導、繰り返し指導、習熟度別指導を計画し、基礎的・基本的な内容を確実に定着させる。 (カリキュラム改革関連)</p>	B
<p>指標 学習理解度到達診断「しんだん」における国語と算数の正答率6割以上の児童の割合を、全学年で前年度割合より増加させる。</p>	
<p>取組内容②【区分 言語活動の充実】</p> <p>2年継続した研究の2年目として、低・中・高学年と児童の発達段階に応じた言語活動の充実を図る授業づくりの研究を行う。 (カリキュラム改革関連)</p>	B
<p>指標 年度末にまとめる2年間の研究の検証</p>	
<p>取組内容③【区分 外国語活動】</p> <p>英語教育の強化を図るため、3～6年生において年間指導計画に位置付ける。 (グローバル化改革関連)</p>	B
<p>指標 年間指導計画に基づいて外国語活動の授業を展開する。</p>	
<p>取組内容④【区分 ICTを活用した教育の推進】</p> <p>ICTの効果的な活用方法について指導方法の研究を行い、既存の機器での実践例を蓄積していく。 (グローバル化改革関連)</p>	B
<p>指標 実技研修会やモデル校の公開授業に参加したり、校内における実践を増やしたりして、校内での情報共有を積極的に行う。</p>	
<p>取組内容⑤【区分 教育活動のための時間の確保】</p> <p>文部科学省の委託事業「平成27年度自律的・組織的な学校運営体制の構築に向けた調査研究事業」の研究指定を受け、校務支援システムを活用して事務作業の効率化を図り、児童に関わる時間を増やす。 (マネジメント改革関連)</p>	B
<p>指標 調査結果をまとめ、報告するとともに、学校ホームページ等で公表をする。</p>	
<p>取組内容⑥【区分 授業研究を伴う校内研修の充実】</p> <p>実施計画に基づいて、計画的に研究授業および研修会を実施する。(マネジメント改革関連)</p>	B
<p>指標 全教員が一人1回以上の研究授業を行い、内、3回は全体研修会を行う。</p>	

【視点 学力の向上】

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ①学習理解度到達診断「しんだん」の算数（79.8%→84.2%）は、正答率6割以上の児童の割合を全学年で前年度割合より増加させることができたが、国語（79.9%→79.4%）は増加させることができなかつた。
- ②言語活動の充実を目的に、授業研究、研修会、教材開発などを行い、紀要にまとめるなどして研究してきたので、「全国学力・学習状況調査」結果などで、成果が表れてきている。
- ③3～6年生において、計画通り外国語活動の授業を展開することができた。
- ④実技研修会やモデル校の公開授業に参加したり、校内における実践を増やしたりして、ＩＣＴの効果的な活用方法について指導方法の研究を行ってきたが、タブレットの導入が遅れたので、機器を使用しての研修や、校内での情報共有が十分に行われなかつた。
- ⑤校務支援システムを活用して事務作業の効率化を図り、導入業者による3回の訪問研修会を実施した。また、調査結果を市に報告するとともに、3月14日には全市に向けて活用研究校全体会が予定されている。
- ⑥全教員が一人1回以上の研究授業を行い、内、5回は全体研修会を行って、校内研修の充実を図ることができた。

次年度への改善点

- ①学習理解度到達診断「しんだん」の結果を分析するなどして、基礎的・基本的な内容を確実に定着させるよう、個に応じた指導をさらに充実させていく。
- ②これまでの成果と課題を検証して、国語科だけでなくすべての教育活動の中でいかしていく。
- ③市教委の方針通り、外国語活動を年間計画に位置付ける。
- ④ＩＣＴ機器を実際に使用して、活用方法や指導方法の研究を行ったり、マニュアルを作成したりするなどして、授業に活用していく。
- ⑤訪問研修会ならびにお互いに操作を教え合うことによって、活用の仕方はある程度理解できたが、期待される事務作業の効率化にはまだ至っていない。引き続き校務支援システムの活用方法の理解に努める。
- ⑥本校児童の実態に応じた指導方法を充実させるために、引き続き授業研究を伴う校内研修を実施していく。

年度目標	達成状況
<p>【視点 道徳心・社会性の育成】</p> <p>○学校アンケートにおける「命や人権の尊さについて考えたことがある」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>○学校アンケートにおける「学校のきまりを守って学校生活を送っていますか」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>○自他ともに認めあい、思いやりのある児童を育成するために、ゲストティーチャー派遣事業により、「いのちと性」の教育事業、「子どものストレスマネジメント」の教育事業、「子どもの情報教育」の事業を実施する。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>○心豊かな子どもの育成のため、芸術鑑賞行事を実施する。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>○避難訓練（防災教育）を毎学期に実施し、また高学年においては安全（防犯）教育も実施する。 (グローバル化改革関連)</p> <p>○問題行動（生活指導）対応、いじめに関する研修を実施する。 (マネジメント改革関連)</p> <p>○産業界等と連携し、ゲストティーチャーを招いての職業講話を高学年に実施する。 (学校サポート改革関連)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【区分 道徳教育と人権教育の推進】</p> <p>道徳の授業の年間標準授業時間を確保するとともに、人権に関する指導内容の充実を図る。</p>	B
<p>指標 学校アンケートにおける「命や人権の尊さについて考えたことがある」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【区分 規範意識の育成】</p> <p>社会や集団生活でのルールを守ることを日常的に全教職員で指導する。</p>	A
<p>指標 学校アンケートにおける「学校のきまりを守って学校生活を送っていますか」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。</p>	B
<p>取組内容③【区分 自尊感情と思いやりの心】</p> <p>ゲストティーチャー派遣事業により、「いのちと性」の教育事業、「子どものストレスマネジメント」の教育事業、「子どもの情報教育」の事業を実施し、自分や他者の価値を尊重し、相手を思いやる心を育成する。</p>	
<p>指標 6年生を対象に、「いのちと性」の教育事業、「子どものストレスマネジメント」の教育事業、「子どもの情報教育」の事業を各1回ずつ実施する。</p>	
<p>取組内容④【区分 心豊かな子どもの育成】</p> <p>芸術鑑賞行事を実施し、心豊かな子どもの育成を図る。</p>	B
<p>指標 年間計画に従い、芸術鑑賞行事を実施する。</p>	
<p>取組内容⑤【区分 防災教育の推進】</p> <p>災害についての正しい知識と的確な判断力を身につけ、非常時には正しい判断力を持って適切に行動できるように指導する。</p>	B
<p>指標 各種の想定に対応した避難訓練（防災訓練）を毎学期に実施する。</p>	

取組内容⑥【区分 防犯教育の推進】 日常生活における犯罪被害の現状及び防止方法について理解を深め、自ら危険を回避し安全に行動するための安全教育を実施する。 (グローバル化改革関連)	B
指標 5・6年生において実施する。	
取組内容⑦【区分 問題行動への対応】 日頃より問題行動及びいじめを許さない集団の育成に取り組むとともに、事案発生時には、関係諸機関とも連携しながら早期解決に努める。 (マネジメント改革関連)	B
指標 問題行動（生活指導）対応、いじめに関する研修を実施する。	
取組内容⑧【区分 キャリア教育の推進】 児童の発達段階に合わせ、系統立てたキャリア教育を実施する。 (学校サポート改革関連)	B
指標 産業界等と連携し、ゲストティーチャーを招いての職業講話を高学年に実施する。	

【視点 道徳心・社会性の育成】

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>①さまざまな資料を活用し、道徳の授業を展開していくことができた。学校アンケートにおける「命や人権の尊さについて考えたことがある」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合は92%で、目標の90%を上回った。</p> <p>②社会や集団生活でのルールを守ることを繰り返し指導し、意識は高まってきた。学校アンケートにおける「学校のきまりを守って学校生活を送っていますか」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合は94%で、目標の80%を大きく上回った。</p> <p>③区のゲストティーチャー派遣事業により「いのちと性」（12月16日）、「子どものストレスマネジメント」（2月12日）、「子どもの情報教育」（1月16日）をそれぞれ実施した。</p> <p>④芸術鑑賞（古典芸能：落語）を12月9日に実施した。</p> <p>⑤5月8日に火災、9月9日に台風、1月20日に地震を想定した避難訓練をそれぞれ実施した。</p> <p>⑥1月16日の土曜授業で、犯罪から身を守ることを目標に、地域の方や保護者とともに「防犯教室」を全学年で実施した。また、「非行防止教室」を12月3日に5年生で実施した。</p> <p>⑦問題行動に対し、早期解決に努めてきた。また、必要に応じて教職員で共通理解を図ってきた。</p> <p>⑧キャリア教育を大阪青年会議所の協力で外部講師を招いて11月11日に6年生で実施した。</p>

次年度への改善点

①次年度においても、道徳の授業の年間標準授業時間を確保するとともに、人権に関する指導を進める。
②次年度においても、社会や集団生活でのルールを守ることを日常的に全教職員で指導する。
③東淀川区が推進している「小中学校ゲストティーチャー派遣事業」を受け、計画的に実施する。
④予算の確保を早期に行い、芸術鑑賞会を実施する。
⑤災害についての正しい知識と的確な判断力を身につけ、非常時には正しい判断力を持って適切に行動できるように避難訓練を学期毎に実施していく。
⑥次年度においても、日常生活における犯罪被害の現状及び防止方法について理解を深め、自ら危険を回避し安全に行動するための安全教育を引き続き指導する。
⑦次年度においても、問題行動及びいじめを許さない集団の育成に取り組むとともに、事案発生時には、関係諸機関とも連携しながら早期解決に努める。
⑧児童の発達段階に合わせ、キャリア教育を計画する。
○中間目標及び年度目標を検討・精選して、取り組み内容を計画する。
○個別の課題に対応するために、支援員等、人を確保する必要がある。

年度目標	達成状況
<p>【視点 健康・体力の保持増進】</p> <p>○昨年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の全国平均を下回っている「20mシャトルラン」、「立ち幅跳び」及び「反復横跳び」の結果をふまえ、体力増進を図る。秋の調査結果が春の調査結果より上回る。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>○学校アンケートにおける「運動することが好き」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を70%以上にする。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>○学校アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりとし、健康に気をつけている」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>○学校アンケートによる「給食を残さず食べている」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>○毎月1回安全点検日を設け、修理・補修の必要な個所の実態を把握し、早期に改善を行う。 (マネジメント改革関連)</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【区分 体力向上への支援】</p> <p>体育の授業において、敏捷性や持久力、跳躍力のアップを目指す取組をする。 (カリキュラム改革関連)</p>	A
<p>指標 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、「20mシャトルラン」、「立ち幅跳び」及び「反復横跳び」の結果を春より秋の調査結果で上回る。</p>	
<p>取組内容②【区分 体育科授業の充実】</p> <p>運動やスポーツに興味・関心が高まり、楽しみながら取り組めるような授業づくりを工夫する。 (カリキュラム改革関連)</p>	A
<p>指標 学校アンケートにおける「運動することが好き」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を70%以上にする。</p>	
<p>取組内容③【区分 健康な生活習慣の確立】</p> <p>保健指導や手洗い・うがい強調週間等を通して、児童が手洗いの習慣を身につけられるよう指導する。 (カリキュラム改革関連)</p>	B
<p>指標 学校アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりとし、健康に気をつけている」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。</p>	
<p>取組内容④【区分 食育】</p> <p>給食週間や栄養指導を通して、食への関心を高める指導を実施する。 (カリキュラム改革関連)</p>	A
<p>指標 学校アンケートにおける「給食を残さず食べている」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。</p> <p>また、給食日誌における残食率の平均を5%以下にする。</p>	
<p>取組内容⑤【区分 教育環境の整備】</p> <p>安全な学習環境の整備に向けて日頃より全教職員で取り組む。 (マネジメント改革関連)</p>	B
<p>指標 毎月1回安全点検日を設け、修理・補修の必要な個所の実態を把握し、早期に改善を行う。</p>	

【視点 健康・体力の保持増進】

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

①豊富な運動量を確保した授業を目標に進めていくことができた。秋に実施した運動能力の結果を見ると、女子の反復横跳び（39.7→39.2）で目標を下回ったが、全体的に体力増進を図ることができた。

②楽しみながら取り組めるように体育の授業作りが工夫されており、学校アンケートにおける「運動することが好き」の項目において「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合が91%で、目標の70%を大きく上回った。また、なわとび週間やかけあし週間では、目標カードの配布や新しいなわとび台の設置などをし、意欲的に参加する児童が多くいた。

③手洗い・うがいのアンケート結果では、できている児童とできていない児童の差が大きかった。しかし、学校アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりとし、健康に気をつけている」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合は、88%で、目標の90%にわずかに届かなかったが、寒い中でも風邪・インフルエンザの予防のために手洗い・うがいに積極的に取り組めていた。

④学校アンケートにおける「給食を残さずに食べている」の項目において、「あはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童が91%で、目標80%を大きく上回ることができた。これは、栄養指導や毎日の給食カレンダーなどにより、食への関心も高まり、残さず食べようとする意識が高まっているためだと考えられる。また、給食日誌における残食率の平均は、1.2%で目標の5%を大きく下回った。

⑤毎月一回の安全点検を行い、修理・補修の必要な個所の実態を把握し、早期に改善できるようにした。

次年度への改善点

①今後も体育の授業において、敏捷性や持久力、跳躍力のアップができる指導法を考えていく。

②運動やスポーツに興味・関心が高められるように、体育科の指導法の研修・意見交流を行い、指導力の向上を図る。

③手洗い・うがいを進んで行い、健康に気を付ける意識を高められるようにしていく。

④今後も給食週間や栄養指導を通して、好き・嫌いをなくし、残さずに食べる習慣を身に付けられるように指導していく。

⑤安全点検では、項目または、具体的な文面を加えていく方向で検討する。また、管理職・教職員での確認も必要であると考える。今後も全教職員で学校環境の整備を実施して、安全面を確保していく。

◎前期給食残食率 (%) 4月9日～10月21日

	主菜	副菜	果物 デザート	米飯	パン	牛乳
平均	0. 2	0. 6	0. 3	2. 1	3. 7	1. 2

総平均 1. 1

◎年間給食残食率 (%) 4月9日～2月19日

	主菜	副菜	果物 デザート	米飯	パン	牛乳
平均	0. 2	0. 6	0. 4	1. 8	4. 1	1. 7

総平均 1. 2

年度目標	達成状況
<p>【視点 特別支援教育の充実】</p> <p>○障がいのある全ての子どもの「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」を作成し、個別の指導計画に基づき指導する。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>○障がいのある子と通常学級の子どもの交流および共同学習を推進する。 (カリキュラム改革関連)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【区分 特別支援教育の充実】</p> <p>「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成し、一人一人のニーズに応じて見直しを学期ごとに行う。 (カリキュラム改革関連)</p>	B
<p>指標 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」に基づいた指導を行う。</p>	
<p>取組内容②【区分 特別支援教育の充実】</p> <p>支援を必要とする子どもについて全教職員で共通理解を図る。 (マネジメント改革関連)</p>	B
<p>指標 特別支援教育に関する研修会を学期に1回実施する。</p>	
<p>取組内容③【区分 特別支援教育の充実】</p> <p>教育活動全体を通じて、多様性を尊重する活動や実践を学期に1回行う。 (カリキュラム改革関連)</p>	
<p>指標 学校アンケートにおける「友達にはみんなよいところがある」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。</p>	A

【視点 特別支援教育の充実】

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>①「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」に基づき、支援の方法を工夫して指導を行っている。今後も児童のニーズに応じて見直しを行いつつ指導してきた。</p> <p>②特別支援教育に関する研修会を学期に1回実施した。また、学年会、特別支援教育推進委員会、生活指導部会、職員会議や、各学期に行った研修会で、支援の必要な児童に対しての共通理解が図られた。</p> <p>③発達段階に応じ、教育活動全体を通じ、みんなのよさに気づく活動や実践が工夫され、自然に互いの違いを理解し、手助けができる、尊重し合う姿も見られる。学校アンケートにおける「友達にはみんなよいところがある」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合は、99%で目標の80%を大きく上回った。</p>
次年度への改善点
<p>①「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の見直しを今後も行い、教育支援サポーターの先生の配置が継続され、支援できることが望まれる。</p> <p>②支援を必要とする児童の実態やニーズについて、さらに理解を深める。</p> <p>③今後も、教育活動全体を通じて、多様性を尊重する活動や実践を行う。</p>